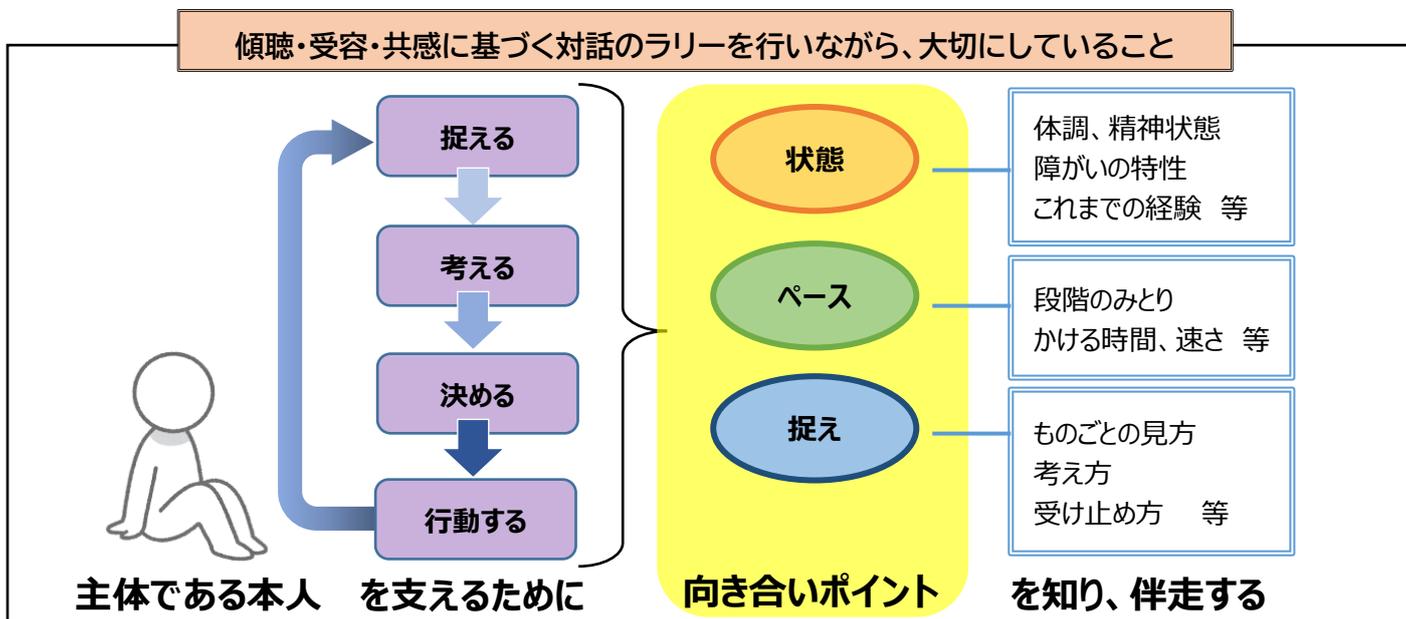


12月号に続き、特別支援教育センター研究発表会「教育相談実践報告」よりお伝えします。
 本人を支え、伴走していくために、相談当事者が対話のラリーを行いながら大切にしていることをまとめました。



教育相談は指導ではありません。本人の思いや願いに寄り添うことから始まります。主体である本人が、ものごとを捉え、考え、選択・決定し、行動するというサイクルを支えるために大事にしているのが、以下に示した3つの「向き合いポイント」です。

1つ目は、本人の体調や現在の精神状態、障がいの特性やこれまでの経験等である「状態」です。2つ目は、本人の今の段階をみとり、相談を進める上での時間配分や、進め方、本人にとって必要な「ペース」です。3つ目は、本人のものごとの見方、考え方、受け止め方のクセや特徴である「捉え」です。この3つの理解が深まれば、より本人に合わせた伴走ができると考えています。

<向き合いポイント>

本人の状態

本人の状態を知ること。本人の表情や様子から心身の状態を確認する。毎回確認することで「いつもと違う」に気付くことができるようになる。自分で状態を伝えることができた際は、それが良くない状態や表現だとしても称賛する。ありのままの自分を受け入れられることが、相談担当者への信頼、安心へつながると考える。どのような状況にある時も、今の状態に寄り添い、共感することを大切にす。

本人のペース

把握できた「状態」を基に、今の状況や向き合う課題への取り組み方を、短期的、長期的な視野で見ながら、今の本人とすり合わせ、取り組む段階の設定やペース配分を調整する。
 本人は、経験不足等により、「今の(現在の)状態」とかけ離れたチャレンジをし、さらに失敗を重ねることも少なくない。焦る、急ぐ気持ちや、0か100かの捉えに寄り添いつつも、段階やペース配分を一緒に考え調整し、「これならできそう」を対話の中で見つけ、成功体験を積めるよう支える。

本人の捉え

対話を重ねていくことでこそ、知ることができる「捉え」。私たちは、自分の価値観や考え方、捉え方でものごとをみている。しかし、その見え方、捉え方、感じ方は、人それぞれである。本人の捉えを知ることができなければ、相談のスタートラインに立てず、進んでいかないう状況、ずれたまま進む状況が考えられる。対話のラリーを重ねて、少しずつ目には見えない本人の内面、捉えを知り、その捉えに寄り添った伴走ができるよう努める。

この3つは、変化していくものであり、私たちは常に、その時の本人に寄り添うことを大切にしています。このかわりか、より本人を知ること、本人との信頼関係を深めることにつながり、ひいては、本人が自分を知ることにつながると考えます。これからも、本人が、自己と他者と社会と向き合い、個性をいかして、より豊かに社会や地域で生きていく過程を支える「対話」をしていきたいと思ひます。